



# 東アジア青年交流プロジェクト・訪口団参加

## ヨーロッパ的な雰囲気のある街並

書記次長 吉 駒 真 一

7月14日～18日の5日間、極東ロシアへ13名にて訪問しました。

支部から、東アジア青年交流プロジェクト・ロシア訪問団に参加するようにとの指示を受けたときには、ロシアは寒い気候と暗い空や街並み、治安も悪く、出歩く人も少ないなど、勝手に暗いイメージを抱きました。このため、ロシアへの興味よりは、普段から集会などでよく顔を合わせる地域の方がたとの交流を深めたいとの気持ちで参加しました。

ところが、出発時から驚きの連続でした。昔から「ロシア唯一の不凍港」として、重宝されていたウラジオストク市へは、2時間ほ

想を遙かに越え、30度もありました。しかも日没は午後9時頃で、多くの家族連れやカップルが、つかの間の夏を惜しむかのように、遅くまで屋外で遊んでいました。

街並は、これまでに東アジア交流プロジェクトで行ったアジアとは大きく異なり、ヨーロッパの雰囲気が強く漂っていました。鮮やかな色彩のロシア正教会、築後100年ほどのレンガ造りの建物、広い通りには街路樹が植えられ、いたるところに花が咲き、カフェやレストラン、海沿いの遊園地などなど、未体験の美しさに、時の流れを忘れました。

公式訪問先の、政党・公正ロシアとの交流では、「ビジネスチャンスは多くあり、中国企業はどんどん進出しているが、日本は中国よりもやるのが遅い」との指摘が強く印象に残りました。



「日本センター」では向井所長から、日口貿易・交流の話をお願いしましたが、内容は次の機会に譲りたいと思います。

「日本に一番近いヨーロッパ」である極東ロシアには、機会があれば皆さんもぜひ一度、訪問されることをお勧めします。

最後に、準備などお世話等していただいたさまざまな方に深く感謝します。そして、訪口団の皆さん、素敵な時間をバリショーエ（本当に）、スパシーバ！（ありがとう）



ウラジオストク・革命広場



ウラジオストク駅舎にて

どで到着。3日後には、シベリア鉄道の夜行列車でハバロフスク市に移動しましたが、どちらの街も澄み切った青空で、最高気温は予

# 日韓平和連帯ピースキャラバン隊訪韓レポート

青年部副部長 横山貴安基

8月11日～17日の7日間、日韓平和連帯・沖縄意見広告運動主催の韓国キャラバン隊の一員として、初日は神戸からフェリーを乗り継ぎ、韓国・釜山港に到着しました。

## 半分に折れたセウォル号

まず、韓国大型旅客船「セウォル号」の引き揚げ現場(木浦港)に行きました。転覆事故から3年、船体はドックに横たわり、無残にも半分に引きちぎられた姿は衝撃的でした。周囲の木々やフェンス



には、鎮魂の黄色のリボンが無数に括られており、その中にはハングル以外の文字もあり、世界的にショッキングな事故であった事を再認識しました。その夜は、全北の労働者と交流、意見交換をしました。

## ショッキングな拷問部屋

2日目はソウル。「警察庁人権センター」を訪れ、講義を受けました。この建物は民主化運動人士であったパク・ソンチョル氏たちが、弾圧による拷問を受けた場所

で、12年程前まで使われていたとのことでした。

拷問を行う部屋は5階でしたが、拷問される人物は目隠しをされ、1階から5階まで止まることのないエレベーターに乗せられ、自分がどこに連れて行かれてるのか分からない恐怖を与えると聞きました。各部屋には水拷問のための水槽や、やや広めの電気拷問の部屋があり、なんとも言えないような不気味な恐怖を覚えました。

その後、西大門刑務所の視察をしました。ここは1908年～1987年までの約80年間、反政府活動者を収容していた所ですが、今日では資料館になっています。中庭では、翌日の8・15南北統一平和集会に向けた前夜祭が、若者を中心に行われていました。

## 非武装地帯から南北鉄道へ

3日目は、高陽市にある、多くの民間人がアカ（政治犯）と決めつけられて虐殺された洞窟（金鉞）を視察し、続いて、非武装地帯である臨津閣（イムジンガッ）を見学しました。

その後、南北を結ぶ鉄道の駅の新都羅山駅を訪れました。ここは、南側から北の開城工業地区に向かう主要駅で、当時は人や物が行き交い、大変活気に満ちた駅だったが、今では操業停止に伴い、閑散としていました。駅として使われる事もほとんどなくなったそうです。

暑い南北統一平和集会  
今回最大の目的である8・15集会に参加し、あいにくの雨天でしたが、韓国国民の平和に対するアピール、歌や踊りを観て、個々人の熱気が一つになった集会を実感しました。



その後、会場からアメリカ大使館へ、横断幕を持ち、デモ行進を行いました。私は言葉が分からず、声を上げることはできなかったのですが、参加者が一丸となってアメリカに抗議する思いがひしひしと伝わってきました。

## 議事堂前に抗議テント

最終日、宿泊したホテルのすぐ近くにある、パク・クネ韓国前大統領が所属していたセヌリ党本部前や韓国国会議事堂を訪れ、平日の朝の通勤時間にも関わらず、テントを張って抗議行動をしている市民を見ました。

## 韓国国民の力強さに触れた

自分にとって初めての訪韓でしたが、韓国の歴史に触れたことも新鮮であり、そして何より韓国国民の政治意識の高さ、一人ひとりが自分たちの力で国を作るのだという熱い気持ちに触れたことが、何よりの感動でした。

今回の体験を、日本の労働者にも伝え、広めることで、少しでも今の日本を変える手がかりになればと思います。